

『 スクミリングガイの生態と被害抑制に関する研究 』

天城 妃奈 大杉 健斗 武内 悠樹 坪本 啓嗣 村上 健
指導教員 岩本 英男

1 研究の背景と目的

田植えが始まる頃の水田でよく見かける大きな巻貝は、「ジャンボタニシ」と呼ばれている。正確には、「スクミリングガイ(*Pomacea canaliculata*)」という外来生物である。1981年に台湾から食用として持ち込まれ、養殖が行われていた。現在は、関東以南に生息し、生息範囲を拡大し続けている。この生物は、殻高5cm以上になる大型の巻貝で、イネの幼芽を食害する生物として農家にとっては駆除したい生物である。私たちは、スクミリングガイの生態を調べ、その情報を広く共有することで、被害を抑制することを目的として活動をしている。

2 方法

- ①姫路市立水族館学芸員の増田 修氏にスクミリングガイの生体についての疑問点を質問した。
- ②実際に被害を受けている田んぼの農家の方に被害状況について現地調査を行った。
- ③小・中学校へスクミリングガイについてのアンケート調査を実施して、認知率を調査した。

3 結果 (アンケート調査結果について)

- | | | |
|-----|-----------------------|------------------------|
| 質問1 | スクミリングガイはどれか | →正答率約55% |
| 質問2 | スクミリングガイの卵塊はどれか | →正答率約68% |
| 質問3 | スクミリングガイの住んでいる場所はどれか | →正答率約77% |
| 質問4 | スクミリングガイが食べているものは何か | →正答率(イネ):約58%(野菜):約21% |
| 質問5 | スクミリングガイが特に活動する季節はいつか | →正答率(夏):約46%(秋):約29% |

4 考察

アンケート調査では、正答率はどれも50%を超えており、予想より高い結果となった。今回の調査は、たつの市内の小・中学生を対象にした調査であり、この地域は田んぼが多いために、普段から生体をよく見かけていたために、このような結果になったのだと考えられる。一方で、特に活動する季節についての質問では、回答が分散し、偏ることがなく、『わからない』と答えた回答が比較的高かったことから、小・中学生が季節に関係なく生体を見ていたと考えられる。

5 まとめ・展望

被害の抑制のためには、生体駆除はもちろんのこと、卵塊の駆除を行うことで、新たな生体を増やさないことが重要である。そこで、小・中学校に生体の情報や、正しい駆除方法などをまとめたポスターを配布し、生体の認知率をより高めたうえで、さらに卵塊の駆除を呼びかけていきたい。そうした活動を続けることで、生体の現存量を減少させ、被害を抑制させたい。

6 参考文献

- ・国立環境研究所 侵入生物データベース スクミリングガイ(2024年6月)
- ・スクミリングガイ(ジャンボタニシ)の被害防止対策について(2024年6月)
農林水産省 消費・安全局植物防疫課国内防除第2班
- ・増田 修(2011年2月)田んぼの生きものたちータニシ 農山漁村文化協会
- ・増田 修ら(2004年10月)日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類 (株)ピーシーズ